

新テストに向けた各校の取組③

愛媛県立松山北高等学校 泉 亮太
愛媛県立三島高等学校 天羽 平

1 はじめに

令和3年1月に大学入学共通テストが実施された。これまで、新テストに対応するために各校で様々な取組が実施されており、研究部でも昨年、一昨年とアンケート調査を行ってきた。今年度も引き続き、各校にアンケートに協力していただき、これまでの総括や今後の課題などについて調査を行った。

アンケートは県内県立学校（分校、定時制高校を含む）、中等教育学校に依頼しており、以下のデータについては回答をいただいた58校のものである。なお、昨年度同様に、複数回答可としていることや、設問ごとに回答者数にばらつきがあるため、選択数での表記にしている。また、アンケートに答えていただいた数を（ ）の中に記載している。

2 アンケートの結果と考察

【質問1】

(1) 共通テスト対策の実施状況について

	回答者数 (58)
考查問題で対策をしている	30
授業で対策をしている	21
課題で対策をしている	17
その他	15

(2) クラスや学年の連携について

	回答者数 (44)
各学年それぞれで対策をしている	22
各学年で連携して対策をしている	4
各クラス・講座ごとで対策をしている	23
その他	0

(3) 定期考査での対策の具体例について(30)

- ・大問1問分で配点は8～10点程度。
- ・すべて新テスト対策の問題を出題したが正答率が低かったため、次の考査では半分程度の出題率に変更した。
- ・考査時間を80分で実施。
- ・大問1問で会話文形式の問題を出題。
- ・試験時間の延長を検討中。
- ・1年次の考査で、最後の1問を会話形式の穴埋めで出題。配点は7点前後で抑えめにしている。
- ・定期考査で最低大問1問は出題。
- ・全学年各考査に1～2問程度、会話文の問題などを出題している。考査時間は以前から60分で、延長はしていない。正答率は問題の難易度による。

(4) 授業での対策の具体例について(18)

- ・課題を出し、授業で解説するという形を週に1時間程度。
- ・模試の前の週には、2時間から3時間対策を行っている。模試の過去問を利用している。他にも夏季・冬季長期休暇中の補習を利用している。
- ・1年生の確率では、2、3年生がすでに受

験したことがある共通テスト模試の問題を
改変したものを利用。週1で実施する朝課
外でも取り組ませている。

- ・数学Ⅰの2次関数の分野では、**Grapes**を
活用した授業を展開している。
- ・学校設定科目で対応、各社の共通テスト対
策の問題集など、週に1回程度
- ・データの分析では、統計検定2級や3級の
問題を活用することもある。
- ・数名で話し合い、ロイロノートで意見や考
えを提出し話し合う
- ・授業の展開において出題の仕方、発問を工
夫し、共通テストに対応している。演習の
問題は、共通テスト対策の問題集を利用し
ている。
- ・3年生文型の演習で共通テスト対策の問題
集を使用している。ラーズズの重要問題演
習を使用しており、会話文の問題などが数
問掲載されている。
- ・1学期は、数研出版のニューステージを使
用したが、共通テスト対策というよりは、
基礎の確認・定着を図った。
- ・文系については、毎日の授業で問題を解く
などの対策をしている。理系については、
校外模試の対策として授業中に時間を取り、
問題を解くなどの対策をしている。

(5) 課題での対策の具体例について(17)

- ・「日々プリ」という課題を毎日提出させてい
る。その中で、発展的な内容や共通テスト
形式の問題に触れさせている。正答率の悪
い問題や解説が別途必要な問題は、その日
の授業の最初に解説を行うようにしている。
- ・共通テストを受験する生徒が非常に少ない
ので、市販の教材やセンターの過去問を使
用して、放課後等に個別に指導している。
- ・週末課題として、各社の共通テスト対策の
問題集やプリントなど。基本毎週末で取組
状況はよい。
- ・單元ごとの復習プリントや、長期休業中の
課題の中に適宜共通テスト対応の問題を取

り入れている。数研出版(思考力ⅠA)、ラ
ーンズオーダーシステム、数研出版(考え
る力を伸ばす数学Ⅰ+A)などを利用。

- ・週末課題で模試対策の一環として実施して
いる。土曜日に実施されるゼミ(補講)で解
説を行っている。

(6) 共通テスト対策で活用している教材につ
いて(29)

- ・思考力・判断力・表現力を磨く数学Ⅰ+A、
Ⅱ+B(数研出版)
- ・数学の「思考力」を鍛える問題集(河合塾)
- ・2021 大学入学共通テスト重要問題集(実教
出版)
- ・「受験の月」「高校数学の美しい物語」サイ
ト
- ・過去の教科書「数学基礎」
- ・これからの大学入試に必要な数学の思考力
を鍛える問題集(河合塾)
- ・教育課程研究大会の課題でいただいた各校
で作成された問題
- ・大学入学共通テスト実践対策問題集(旺文社)
- ・2021 共通テスト対策 実力養成 重要問題演
習(ベネッセ)
- ・共通テスト対策重要問題演習、直前演習 数
学ⅠAⅡB(ラーズズ)
- ・ニューステージ数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B(数研
出版)
- ・パワーマックス
- ・進研模試、県学力テスト等の過去問題

(7) 共通テスト対策での成功例や今後の課題
について(28)

- ・生徒の基礎学力の定着を図るために、教科書
と問題演習に取り組んでいる。なかなか共通
テスト対策の時間が確保できていない状況
にあり、今後、それに伴う教材研究の時間確
保が今後の課題である。
- ・1年生のときからこういった形の問題に慣れ
させておく必要がある。
- ・どの程度のレベルの入試問題になるのか予測
がつかない。共通テストの数学ⅠAの試験時
間は伸びたが、問題量が多いので時間との勝

負になる。

- ・データ分析の問題量（ページ数）が多く、なかなか集中力が続かない。データを整理することが苦手な生徒が多い。2次試験はあまり大きくは変わらないのではないかと。
- ・生徒の思考力・判断力・表現力を向上させるために普段の授業からどのような取り組みをすればよいのか、何か良い方法があれば教えてほしいです。
- ・文章を読んで考察することが難しい生徒が多いため、データ等の問題になると、正確に読み取ることが難しい。データについては、今後も大切な内容であるので、授業で十分に理解させるようにしたい。
- ・本年度が初年度であることから、業者の対策問題も様々である。本質を理解させた上での解説を心掛けているが、どの程度の問題が出題されるのか検討が難しい場合がある。
- ・3年生理型はコロナの影響で数学Ⅲがやっと終わり、記述対策の問題集に入ったところで、共通テスト対策の問題集は自分で解いている状態である。
- ・共通テストが実際どのような出題になるのかふたを開けてみないとわからないのが最大の課題である。記述式の導入が延期になるなど二転三転していることも不安。

各校で、定期考査への出題や課題、補習や個別指導で対策を実施されている。しかし、実際の大学入学共通テストの本試験が実施されていない状況で、各校とも試行錯誤されていることを感じた。今年度、実際に行われる本番の試験を考察することで、今後の指導方法などを改善していけるはずである。

【質問2】

- (1) 各校における ICT の活用について

	回答者数 (58)
授業で活用している	41
課題で活用している	21
その他	14

- (2) 授業における ICT 活用の具体例について

(40)

- ・ソフトウェア「GeoGebra」
- ・デジタル教科書
- ・Grapes
- ・Zoom
- ・電子黒板を利用して、PPのスライド上に電子ペンでの書き込みをしている。生徒にはPPのスライドに対応したプリントを配布し、授業をしている。1年生は全クラス。2・3年生は、半分程度の講座で実施している。
- ・すべての単元で、毎時間、パワーポイントやIRペン
- ・ロイロノート（授業スライドの共有、重要事項の共有など）提出された課題をプロジェクトに投影。採点。または事前に○付けを行い返却。授業で簡単なポイントを説明。
- ・NHK 高校講座等の動画
- ・YouTube 動画配信

- (3) 課題における ICT の活用について(21)

- ・ロイロノート（多数）
- ・Google Classroom
- ・YouTube 動画配信

- (4) 生徒の使用機器について(58)

	回答者数 (58)
生徒個人の機器を使用	16
学校の機器と生徒個人の機器の両方を使用	16
学校で統一した機器を使用	27

- (5) 授業や課題で活用しているアプリケーションなどについて(30)

- ・ロイロノート

- ・ MetaMoJi classroom
 - ・ Grapes、function view
 - ・ Zoom
 - ・ 今後は office365 の活用も検討。
- (6) ICT の活用について成功例や今後の課題などについて(33)
- ・ デジタルとアナログの適切なバランスを保った数学教育。「ヒト・モノ・カネ」がすべて揃っているとはいえない教育現場でどう展開していくか。
 - ・ 本校は、Classi を活用している。課題と小テストを関連させた取組を試みたが、課題の精選及び確認方法など時間的が掛かりうまくいかなかった。今後、問題の提示や課題の確認、小テストの実施をいかに効率よくできるかが課題であると思う。
 - ・ 授業中に iPad で漫画を見るなど、授業に関係ないことをしていることがある。教卓側からは発見できない。
 - ・ 授業で複数台の生徒スマホを学習系 Wi-Fi に接続した場合、通信速度に問題があり、授業のテンポが遅くなる。
 - ・ 今後タブレットが生徒一人一人に支給されたとき、どのようにそれらを活用していくのか。
 - ・ 投影する場所を移動できたらと思う。
 - ・ タブレットを学校で活用しているが、生徒用のものは制限がかかりすぎており、十分に活用することが難しい。
 - ・ 校務系でインストールできないソフトへの対応。
 - ・ 授業進度、課題の配信には一定の効果があった。ただし、対面授業とは違い ICT 等の準備に時間を要することと、生徒の理解状況を確認することが難しい面がある。
 - ・ ICT 活用に教員の個人差が大きい。対面授業でできないことが ICT 活用でできるが、逆に生徒は分かった気になってしまうことも多々あるのではないかと思います。
 - ・ ICT を活用するとすると、一から教材を作る必要があることが大変であり、他の先生方の

作られたものを資産として共有できると良いのではないかと思います。

- ・ 家で解いた問題を教員のロイロノートに写真で提出させ、授業で板書させずに、その写真を全員に送信して、画面に線を引きながら解説をしている教員もいる。

各校で、通信環境や通信機器、設備などハード面での差があり、ICT 活用の現状は学校によって様々であった。それでも、先生方が何とか試行錯誤して取り組んでいる状況を感じた。また、授業動画や教材、プレゼンテーションの準備などのソフト面でもまだまだ不足している状況にあり、今後は教材の共有などが進んでいけば、授業などでの活用も進んでいのではないかと感じた。

3 終わりに

今回のアンケート調査を通して、特に現在の高校3年生の新テストに合わせて、これまで3年間で多くの取組が行われていることが改めて分かった。そのための授業や課題の準備、考查問題の作成などこれまで以上に時間を割いていることも感じた。また、思考力・判断力・表現力や主体的に学習に取り組む態度を養うために、ICT の活用など工夫をされていた。今年度実施される大学入学共通テストを踏まえて、これまでの各校の取組や事例などを共有することで、さらに研究を深め、新学習指導要領で求められる学習の3要素を意識した指導につなげていかなければいけないと感じた。

最後になりましたが、コロナ禍で例年以上にお忙しい中で、今回のアンケート調査に対して丁寧な御回答、御意見をいただきまして本当にありがとうございました。研究委員会で今後も研究を重ねていく所存ですので、各先生方から幅広い御意見をお寄せいただいたら幸いです。